

## 小さな巨人

校長 狩野博臣

### 「いざ行かん 新たな時代の頂点へ」

6月1日から7日まで開催された長崎県高校総体の大会スローガンです。県内高校スポーツの最大の祭典であり、様々な筋書きのない熱戦が県内各地で繰り広げられました。本校の生徒たちも精一杯プレーし、青春の汗と涙を流しました。

6月3日、午後2時30分。陸上競技女子800Mの決勝です。前日行われた予選には85人が出場し、さらに準決勝を勝ち上がった8人が決勝のスタートラインに立っています。8人中3人が口加高校の選手で、その1人は本種目3連覇がかかる選手です。各選手が紹介され、大きな拍手と歓声に包まれたスタジアム。スターターの「On your mark」の合図。そして一瞬の静寂。号砲とともに8人の選手がスタート。2分10数秒間のドラマの始まりです。1週目、ほぼ1回。2週目、第2コーナーから本校選手が先頭に立ち、2位のライバル選手に1メートルの差をつけます。最後の直線は力強い走りで、ライバル選手に1.26秒の差をつけ優勝。この3年間、県高校総体での本種目では誰にも1位の座を譲らず、見事に3連覇を達成しました。

森北 詩音 さん。本校グローバルコースの3年生です。身長154センチ。決して恵まれた体躯ではありません。1年生で県大会を制しましたが、北九州大会で転倒があり惜しくも7位。インターハイに出場できませんでした。翌年、北九州大会で2位になり、8月に三重県で開催されたインターハイに出場しましたが予選を突破できませんでした。それ以降、国体、ユース選手権など大きな大会で結果を残すことができず、長いトンネルに入っていました。10月のある日、私は校長室に呼んで、彼女の前に10個のことばを書いた紙を置きました。「今、一番自分に響くことばを持って行っていいよ」と言うと、彼女が取ったのは次のことばでした。

### 「陸上競技を始めた頃を思い出してみよう ただ走るのが好きで 楽しかった頃を」

走るのが好きで始めた陸上。走るたびに記録が伸び、楽しかったあの頃。しかし、いつしか競技という争いの中で、好きで楽しかった「走る」ということに、皮肉にも苦しめられ、心から楽しめなくなっている自分がいたのでしょうか。

昨年末から足に痛みが出だし、診断は疲労骨折。2月初旬までまともに走ることができませんでした。1月の終わり頃、彼女は「焦っている」と珍しく弱気の言葉を吐きました。さらに試練が彼女を襲います。高校総体開幕直前、5月29日に同居していた祖父がお亡くなりになりました。その日は奇しくも彼女の18回目の誕生日。私は内心、3連覇は難しいだろうと思っていました。

記録2分12秒57。自己ベストでの3連覇。

森北詩音さん、私はあなたを“小さな巨人”と称えます。